

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2971000258
法人名	社会福祉法人 蒼隆会
事業所名	グループホーム すばる
所在地	奈良県香芝市鎌田157-1 (電話)0745-71-7170

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年 10月30日

【情報提供票より】(平成20年 10月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.1 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低 69 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	かまだ医院、奈良友誼会病院、吉本病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地に、3階建ての特別養護老人ホームと平屋のグループホームが建てられている。ホームの南は田園風景が広がり、西に二上山、東に大和三山を眺めることができる。

ホームの玄関を入ると広い食堂兼居間があり、天井に明り取りの窓があつて、明るい雰囲気がある。居間には、ウサギが飼われており、とても心が安らぐ。居室は広く、トイレや洗面台、押入れがある。また、週2回の料理日や月1回の外食日、大衆演劇を見に行く日、特養との合同行事など、楽しい行事も多い。開放的な生活しやすいホームで、利用者や家族の満足度も高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「運営推進会議を活かした取り組み」や「市町村との連携」、「他の同業者との交流を通じた向上」などは、相手があつて取り組みにくい項目ではあるが、まだ課題が残っている。「職員を育てる取り組み」は、順番に研修に参加しているが、職員の着実なスキルアップのための研修計画が望まれる。課題はあるものの、外部評価を謙虚に受け止め、改善に向けた意欲が感じられる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員に配って職員会議で話し合い、できていないところを謙虚に受け止め、再認識している。外部評価の結果も職員に伝達し、合わせて改善に向けて検討する予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 約半年に一度、市の介護保険課長、民生委員、自治会長、老人会長、利用者家族などが参加し開催している。ホームの理解と現状報告が中心で、あまり意見や要望が出ていないが、運営推進会議を活用して率直な意見交換を行い、より地域の理解と交流を深めてほしい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 主に家族が面会にこられたときに、職員が日ごろの様子を伝え、家族の意見や思いを聞いている。ホーム内外の苦情受付窓口を重要項目説明書に記載し、玄関にも閲覧できるように置いている。できれば、面会の少ない家族への連絡方法の工夫や定期的な面談の機会があればさらに良いと思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは特養と共に広い敷地内にあるので、地域の人が気軽に立ち寄りやすいところがあるが、散歩のときは、気軽に挨拶を交わしている。幼稚園や小学校の運動会に招待されたり、特養との合同の夏祭りに地域の人を招待し交流している。また、地域のボランティアの人に、花壇や野菜畑の手入れをして頂いている。

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要項目説明書に記載されている運営理念に、「地域や家族と密接に関わる」ことが謳われているが、その中に、「利用者が地域と密接に関わる」ことも加えれば更に良いと思われる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念が、日ごろ目に触れる玄関のところに掲げられている。理念は、採用時研修で説明し、月一回の職員会議で管理者の思いを伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入っていないが、地域の幼稚園や小学校の運動会に招待されたり、特養との合同の夏祭りに地域の人を招待したりしている。また、地域のボランティアの人に、花壇や野菜畑の手入れをして頂いて交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員に配って職員会議で話し合い、できていないところを再認識している。外部評価の結果も、職員に伝達し検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約半年に一度、市の介護保険課長、民生委員、自治会長、老人会会長、利用者家族などが参加し開催している。ホームの理解と現状報告が中心で、あまり意見が出ない。	○	運営推進会議を活用して率直な意見交換を行い、より地域の理解と交流を深めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な報告はしているが、サービスの向上につながるような積極的な話し合いは持っていない。	○	市内のグループホームとの交流の機会づくりや地域の老人福祉問題の相談窓口としての機能など、市に積極的に働きかけ、連携してサービスの質の向上に取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に家族が面会にこられたときに、職員が日ごろの様子を伝えている。面会が少ない家族については、体調の変化などがあれば電話で報告している。	○	面会が少ない家族には、月一回の書類の送付時などに、写真や手紙を入れるなどの工夫が望まれる。また、開催された行事の様子や今後の予定などを載せたホーム便りを発行されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内外の苦情受付窓口が、重要項目説明書に記載されている。家族の意見は、主に面会時に職員に率直に伝えてもらっている。できれば、定期的に面談日を設けるなど、より積極的に家族に聞く機会があればさらに良いと思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ敷地内に特養やデイサービスもあるが、人事異動は原則行っていない。新入職員は、家族にも紹介している。離職の場合は、影響がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県からの研修は、職員が順番に参加し、職員会議で研修報告をしているが、計画的な研修は行っていない。	○	職員にも意見を聞き、計画的な研修を行って、職員全員がより着実にレベルアップできる取組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで同じ班になった人とはその場で情報交換はしているが、地域の同業者との交流はできていない。	○	ホームによって、常識的に行っているサービスに違いがあることが多い。他のグループホームと積極的に交流を働きかけ、相互訪問や合同研修など、学び合う機会をつくるのが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入所の前に、見学と2・3日の「お試し入所」を実施して、安心納得した上でサービスを利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	週2回の料理日には、利用者の要望を聞き、一緒に買い物に行って、料理をつくる。習字の得意な人に部屋の表札、裁縫の得意な人には刺し子の布巾を作ってもらったりしている。掃除や洗濯物の片付け、野菜の収穫などを一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから利用者や家族に、思いや意向を伝えてもらいやすい雰囲気づくりをしている。日々の生活の中では、散歩や入浴の時間、レクや料理日のメニューなど、なるべく意向を聞く努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回の職員会議で利用者の日ごろの様子を報告し合い、より良く暮らせるための課題、ケアの方法や結果の評価、新たな介護計画などについてみんなで話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月に1回見直し、変化があるときは随時行っている。家族にも説明し、了解を得ている。定期的に家族や本人と面談し、計画作成前に意見を聞けるようにできればさらに良いと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にデイや特養があり、新年会、節分、花見、夏祭り、日帰り旅行など、月に1回合同で行事を行って交流している。利用者の要望にこたえて、大衆演劇の鑑賞や外食など多くの楽しみづくりをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回ホームのかかりつけ医の往診があるが、入所する前の主治医に受診することもできる。緊急のときは、病院への付き添いも行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ看取りケアは行われておらず、ホームの終末期に向けた方針が、今のところ明確ではない。	○	利用者家族の意見も参考に、ホームでできることできないことを職員で話し合い、方針を明確化する必要がある。また、方針を職員全員で共有すると共に、利用者家族に説明して理解を得ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護やプライバシー保護の取り決めがあり、研修も行っている。部屋の入室やトイレ誘導などの声かけにも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間はほぼ決まっているが、一日のスケジュールは利用者の希望や生活習慣、その日の体調や天候などを考慮し工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の料理日を設けて、昼食は利用者の要望を聞き、一緒に買い物に行き、料理をつくる。盛付や片付けなどもできる範囲で手伝ってもらっている。また、月に一度外食日を設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の時間帯の都合で、夜間入浴はできていないが、基本的にお風呂は毎日入ることができるようにし、本人の希望に沿うようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の盛付や食器の片付け、掃除や洗濯物の片付けなどを日課にしている人がいる。また、月1・2回の大衆演劇の鑑賞をとっても楽しみにしている人が多く、居間や居室にポスターが貼られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く、散歩は自由になっている。職員が付き添って、近くの神社やスーパーに行くこともある。ホームの回りに花壇や野菜畑があり、一緒に手入れや収穫することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜以外は、玄関や勝手口は鍵がかかっておらず、自由に出入りすることができる。現在徘徊する人はないが、玄関から出て行くときは、危険がないよう職員が付き添うことにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網や連絡方法、急変発生時の対応などのマニュアルが張られている。火災探知機や消火器が設置され、避難訓練も行われている。運営推進会議を活用し、地域との災害時の協力関係を構築されることが望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	料理日以外は、栄養士がバランスよい献立を考えている。食事量や水分量は、注意を要する人は記録している。また、便秘にならないように食物繊維の多いものを取るよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間はととも広く、天井に明かり取りがあつて、とても明るい。また、居間にウサギが飼われており、心安らぐ雰囲気がある。テレビの前にはゆったりとしたソファもあり、くつろぐことができる。トイレも大き過ぎず使いやすい構造になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基準より広く、押入れや洗面、トイレが付いている。入口には手作りの表札がかけられ、それぞれ異なるのれんが掛けられている。また、ベッドやテレビ、イスなど使い慣れたものを持ち込むことができる。		